

平成27年度授業改善推進プラン 《国語》 西東京市立谷戸第二小学校

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える	41.2%
目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く	48.5%
文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く	51.5%
文の中における主語を捉える	61.8%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
漢字の読み	14.86%
資料を関連付けて読む	10.81%
筆者の思いを解釈して文章を考える	40.54%
指示語に指示内容を入れる	54.05%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
関心・意欲・態度を問う問題では正答率が8～9割台と高く、多くの児童が興味・関心をもって学習に取り組んでいることが分かる。また、話す・聞く問題についても正答率が高く、学習の定着が見られた。	正しい漢字を使って、どのような関係で文と文とがつながっているか整理して書く力や、資料から必要な情報を正しく読み取ったり、文章全体から登場人物の発言のつながりなどを正しく読んだりする力がまだ定着しておらず、課題が残った。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

書く力の向上に向けて、短い文章を組み立て、効果的な表現を考えたり、文章を書いたりする機会を設ける。また、読む力の向上に向けて、短い文章からイメージさせたり、優れた表現を紹介したりする機会を増やす。さらに、資料を読み取る力をつけるために、教科書の文章だけでなく、比較する文章をもってきて、似ている所を挙げさせたり、関連付けて考察させたりするなどの手立てを行う。言語理解に向けて、主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習や言葉遊びなどで、語彙を増やす機会を設ける。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	登場人物の気持ちや場面の様子をとらえて、書いたり、考えを発表したりすることを苦手とする児童がいる。	音読の学習経験を通し、時・場所・登場人物に注意しながら大まかなお話の流れが捉えられるよう読み取らせる。また、登場人物の気持ちを想像したり発表させたりする。
2年生	場面に合わせて、登場人物の行動や会話から想像を広げて気持ちを読み取ったり、筆者の思いを感じとったりすることが苦手な児童がいる。	登場人物と登場のしかたをつかみ、会話に注意しながら感想を書くことができるようにする。また、主語・述語や時を表す言葉などを意識して書いたり読んだりさせる。
3年生	読み取りは出来るが、その情報を活用する力に課題のある児童がいる。また、接続語などの文法に苦手意識のある児童が多くいる。	情報を活用して行う学習を多く取り入れていく。その中に思考ツールも織り交ぜていく。接続詞を意識させた作文やスピーチを継続的に行い、知識を定着させていく。
4年生	叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取ったり、筆者の気持ちを読み取ったりすることにおいて苦手とする児童が多く見られる。	自分の考えを伝えるようにするために、交流活動の場を設けた学習を展開する。また、筆者の気持ちを読み取れるように、文章の語尾やキーワードに注目させた読みを意識する。
5年生	正しい漢字を使って、文と文とのつながりを整理して書く力が弱い。文章全体から必要な情報や登場人物の発言のつながりなどを正しく読み取る力が定着していない。	漢字の書くポイントや覚え方を指導する。音読の回数を増やす中で、登場人物の気持ちを考えながら読ませる。指示語をおさえ、どの内容を指しているのかを推測して把握させる。
6年生	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめることができる。しかし、事実と感想、意見を区別して書くこと、目的に応じて書くことは苦手としている児童が多く見られる。	事実、感想を的確にとらえるために、思考ツールを使い、自分の意見や立場をはっきりさせ、書くようにする。視覚的にも分かりやすいように資料を提示する。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
言語についての知識、理解、技能の問題では、興味・関心を持ち意欲的に取り組む児童とそうでない児童の差が大きかった。書く・読む学習問題でも、同様の傾向が見られた。	基礎基本や既習学習の定着に課題があると思われる。また、日頃より文章を書くことに抵抗がなくなるような柔軟な学習課題を取り入れるなど、引き続き、個の学習状況に応じた指導や興味関心を引き出す授業展開の改善が必要である。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

書く力の向上に向けて、短い文章を、効果的な表現を用いて書く機会を設ける。言語理解に向けて、主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習や言葉遊びなどで、1年生の早い段階から既習の漢字を用いて文章を書くことを習慣付け、語彙を増やす意識を高めていく。また、朝読書の時間、読み聞かせの時間を有効的に活用していく。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	ひらがな50音は概ね定着しているが、助詞や発音・促音を正しく使って文章を書くことを苦手とする児童が多い。	視写や音読に繰り返し取り組ませたり、日記を書かせたりすることで、児童が文章に慣れ親しめるようにする。
2年生	自分の意見を発表することはできるが、友だちの考えの良さに気付いたり、友だちの考えをもとに自分の考えを修正する力が弱い。	自分の考えを発表したり、日記や感想文を書いたりするときは、つなぎ言葉やはじめ・中・おわりを意識して取り組ませる。
3年生	自分の思いや気持ちを言葉にして伝えることが苦手な児童がいる。また、語彙力が少なく、文章を構成する力が乏しい児童もいる。	発表の場を増やし、言葉を発表する機会を増やしていく。語彙力を増やすためにも、読書の習慣を身に付けさせる。その感想を文にして書くなど、書く活動も増やしていく。
4年生	自分がどう考えているのかを相手に伝えることに苦手意識がある。また、筆者の気持ちを読み取ることに難しさを感じる児童もいる。	自分の考えを伝えるようにするために、交流活動の場を設けた学習を展開する。また、筆者の気持ちを読み取れるように、文章の語尾やキーワードに注目させた読みを意識する。
5年生	読書好きが多く、文字を丁寧に書ける児童が多い反面、語彙が少なく、話の意図を汲み取ることが苦手である。	音読の回数を増やし、適宜辞書を引く習慣を身に付けさせて語彙力を育てる。相手の話を十分に理解して、その内容を伝える活動を意図的に設定する。
6年生	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えをまとめることができる。しかし、事実と感想、意見を区別して書くことと、目的に応じて書くことは苦手としている児童が多く見られる。	事実、感想を的確にとらえるために、思考ツールを使い、自分の意見や立場をはっきりさせ、書くようにする。視覚的にも分かりやすいように資料を提示する。